

# 廃棄物分野

## ■ 第2回 環境市民会議結果

数値でみる 環境の現状・問題点	<p>ごみの総排出量は横ばい～微減傾向。資源化ごみ量、リサイクル率は減少傾向。</p> <p>一人一日あたりのごみ排出量は、2011年から2017年までの7年連続で、県下で一番少ないまちである。</p> <p>公害苦情件数は、増加傾向。不法投棄の苦情件数が多い。</p>
市民・事業者の 環境意識	<p>市民アンケート調査で、「ごみ出しのマナーの良さ」について「満足」、「やや満足」と答える割合は58.8%、「ポイ捨てや不法投棄のマナー」について「満足」、「やや満足」と答える割合は19.2%となっている。</p> <p>「食べ残しをいつものようにしている」小学生は55.4%、中学生は64.3%。</p> <p>事業活動で生じるゴミの分別を徹底している企業は約8割みられる一方で、過剰包装抑制などの廃棄物の発生抑制に取り組んでいる企業は2割以下にとどまる。</p>
市民会議で出された 意見	第2回加東市環境市民会議意見集約表のとおり



環境課題	
------	--



廃棄物分野における 市民・事業者が目指す 加東市のすがた	
------------------------------------	--

(参考) 廃棄物分野に関するSDGsの ゴールとターゲット	   
	<p>資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大により持続可能性を向上させる(9.4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 大気や廃棄物を管理し、都市の一人当たりの環境上の悪影響を軽減する。(11.6)</li> </ul> <p>小売・消費レベルにおける世界全体の一人当たりの食糧廃棄を半減させ、生産・サプライチェーンにおける食品ロスを減少させる(12.3)</p> <p>廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。(12.5)</p>

※文中の( )内の数値は、SDGsにおける目標・ターゲット番号

(参考) 兵庫県の主要施策 (第5次兵庫県環境基本計画)	
リユース(発生抑制)、リユース(再使用)の推進	
循環型社会の担い手づくり	
廃棄物の適正処理の推進	
廃棄物系バイオマスの利活用の促進	
質の高いリサイクル(再生利用)の推進	
廃棄物の適正処理体制の整備	
循環型社会と低炭素社会の統合的な取組の推進	
不法投棄対策の推進	
未利用木質系バイオマスの利活用の促進	

■ 第2回 環境市民会議結果

数値でみる 環境の現状・問題点	公共施設では環境に配慮した機器の導入が進んでいる。また、公共施設でのCO <sub>2</sub> の発生量は2011年から25.1%減少。 エコハウス設備の設置数は増加傾向。
市民・事業者の 環境意識	市民アンケート調査で、「(地球温暖化による気温上昇や異常気象は)将来望ましい環境にとってどの程度重要だと思いますか」との問いに対して、「非常に重要」、「重要」と答える割合は合計で73.6%であり関心の高さが伺える。 小中学生アンケートでは、市内での省エネルギーの取組は進んでおり、小中学生にも浸透していることが伺える。 事業者アンケートでは、省エネルギーやエコカーの導入などが進んでいる一方で、地球環境問題への取組を行っていないと答える企業が25.0%となっている。
市民会議で出された 環境課題	第2回加東市環境市民会議意見集約表のとおり



環境課題	
------	--



地球環境分野における市民・事業者が目指す加東市のすがた	
-----------------------------	--

(参考) 地球環境分野に 関係するSDGsの ゴールとターゲット	
	貧困層や脆弱な状況にある人々の強靱性(レジリエンス)を構築し、気候変動に関連する極端な気象現象やその他の経済、社会、環境的ショックや災害に暴露や脆弱性を軽減する。(1.5) <b>持続可能な食料生産システムを確保</b> し、強靱(レジリエント)な農業を実践する。(2.4) エネルギーサービスへの普遍的アクセスを確保する(7.1) 資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大により持続可能性を向上させる(9.4) 包含、資源効率、気候変動の緩和と適応、災害に対する強靱さ(レジリエンス)を目指す総合的政策及び計画を導入・実施した都市及び人間居住地の件数を大幅に増加させ、仙台防災枠組2015-2030に沿って、あらゆるレベルでの総合的な災害リスク管理の策定と実施を行う。(11.b) <b>気候変動対策に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善</b> する(13.3)

※文中の( )内の数値は、SDGsにおける目標・ターゲット番号

(参考) 兵庫県の主要施策 (第5次兵庫県環境基本計画)
CO <sub>2</sub> 排出の少ないライフスタイルへの転換 再生可能エネルギーの導入拡大 温暖化からひょうごを守る適応策の推進 低炭素型の経済活動の推進 オフィス・ビルの低炭素化 再生可能エネルギーの導入拡大 環境に配慮した交通の実現 低炭素型まちづくりの推進 ヒートアイランド対策の推進 CO <sub>2</sub> 吸収源としての森林の機能強化 カーボンニュートラルな資源としての木材利用の促進

# 自然環境分野

## ■ 第2回 環境市民会議結果

<p>数値でみる 環境の現状・問題点</p>	<p>水質調査結果では、河川、ため池ともに全体的にひどい汚れや異臭などは見られず、概ね安定した状況となっている。</p> <p>耕作放棄地の面積は、近年、増加傾向にあり、2018年度時点で15.6haである。</p> <p>市では、獣害防止のための防護柵の整備を進めており、2018年度時点で29.515kmである。</p> <p>市では、有害鳥獣や特定外来生物の捕獲を進めており、2018年には有害鳥獣49件、特定外来生物298件の捕獲を行っている。</p>
<p>市民・事業者の 環境意識</p>	<p>市民アンケート調査で、「川や水路、ため池の水のきれいさ」に関して、「満足」、「やや満足」と答える割合は34.2%となっている。</p> <p>市民アンケートで、「川や水路、ため池の水のきれいさ」が「非常に重要」、「重要」と答える割合は78.2%となっている。小学生、中学生アンケートでは、「空気のきれいさ」、「川や池のきれいさ」、「まわりの緑の多さ」が重要、やや重要と思う割合は、8割以上である。</p> <p>市民アンケートでは、「水辺や野山に生息する生物の豊かさ」の重要度が低い傾向にある。小中学生アンケートでも「鳥や昆虫などの生きものの多さ」を重要と答える割合は比較的低い。</p> <p>事業活動における自然環境に関する取組を行っていないと答える企業は半数以上となっている。</p>
<p>市民会議で出された 環境課題</p>	<p>第2回加東市環境市民会議意見集約表のとおり</p>



<p>環境課題</p>	
-------------	--



<p>自然環境分野における市民・事業者が目指す加東市のすがた</p>	
------------------------------------	--

<p>(参考) 自然環境分野に関係するSDGsのゴールとターゲット</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>11 住み続けられるまちづくりを</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>12 つくる責任 つかう責任</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>14 海の豊かさを 守ろう</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>15 陸の豊かさも 守ろう</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>17 パートナリシップで 目標を達成しよう</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 緑地や公共スペースへのアクセスを提供する(11.7)</li> <li>● 持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようにする(12.8)</li> <li>● 海洋及び沿岸の生態系の回復のための取組を行う。(14.2)</li> <li>● 生物多様性を含む山地生態系の保全を確実に行う。(15.4)</li> <li>● 外来種対策を導入し、生態系への影響を減らす(15.8)</li> <li>● 生態系と生物多様性の価値を、国や地方の計画策定、開発プロセス及び貧困削減のための戦略及び会計に組み込む(15.9)</li> </ul>
---	--

※文中の( )内の数値は、SDGsにおける目標・ターゲット番号

<p>(参考) 兵庫県の主要施策(第5次兵庫県環境基本計画)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域の自然環境から学ぶ環境学習・教育の推進</li> <li>● 公共事業等における環境への配慮</li> <li>● 環境に配慮した農業の推進</li> <li>● 多様な担い手による森づくり活動の推進</li> <li>● 自然とのふれあいの推進</li> <li>● 外来生物対策の推進</li> <li>● 県民への普及啓発</li> <li>● 生物多様性の保全</li> <li>● 野生鳥獣の適切な保護・管理</li> <li>● 里地・里山や人工林等の適切な管理</li> <li>● 瀬戸内海を再生するための取組</li> <li>● 自然とのふれあいの推進</li> <li>● 県民への普及啓発</li> </ul>
---

■ 第2回 環境市民会議結果

数値でみる 環境の現状・問題点	<p>都市公園数は、2011年度の43か所から2018年度の49か所に増加。2018年度の総面積は36.31haで、市民一人当たりの都市公園面積は、9.06㎡。</p> <p>歩行者自転車道の整備延長は、2011年の15,732mから16,834mに延伸。</p>
市民・事業者の 環境意識	<p>市民アンケート調査で、「鉄道、バスの利用しやすさ」に対して「満足」、「やや満足」と答える割合は15.4%となっている。</p> <p>重要度は、「鉄道、バスの利用しやすさ」で高く(69.1%)になっている。</p> <p>「アイドリングストップなど、エコドライブの取り組みを進めている」企業は45.5%となっている。</p> <p>「騒音や振動などについて、近隣に配慮した事業活動を行っている」企業は38.6%となっている。</p>
市民会議で出された 環境課題	第2回加東市環境市民会議意見集約表のとおり



環境課題	
------	--



生活環境分野における 市民・事業者が目指す 加東市のすがた	
-------------------------------------	--

(参考) 生活環境分野に 関係するSDGsの ゴールとターゲット	     
	<p>環境汚染による死亡と疾病の件数を減らす(3.9)</p> <p>安全・安価な飲料水の普遍的・衡平なアクセスを達成する。(6.1)</p> <p>化学物質や廃棄物の適正管理により大気、水、土壌への放出を減らす。(12.4)</p> <p>気候変動対策に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する(13.3)</p> <p>海洋汚染を防止・削減する。(14.1)</p>

※文中の( )内の数値は、SDGsにおける目標・ターゲット番号

(参考) 兵庫県の主要施策 (第5次兵庫県環境基本計画)
<p>県民参加による安全・安心な生活環境づくりの推進</p> <p>公害防止体制の適切な運用</p> <p>有害化学物質対策等の推進</p> <p>放射性物質に関するモニタリング</p> <p>大気環境の保全</p> <p>公共用水域・地下水及び土壌汚染の防止</p> <p style="background-color: #d9ead3;">身近な生活環境の保全</p> <p>防災・減災の社会基盤整備</p> <p>災害に強い森づくり等豪雨対策の推進</p> <p>災害廃棄物処理の体制づくり</p> <p>不法投棄対策の推進</p>

# 協働の推進

## ■ 第2回 環境市民会議結果

数値でみる 環境の現状・問題点	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 環境まちづくり会議開催回数は 2011 年以降増加傾向。環境に関する講演会、イベント等の開催回数は 2016 年までは増加傾向にあったが、2017 年からは減傾向。参加者数は、2014 年までは増加傾向にあったが、以降は減少傾向。</li> </ul>
市民・事業者の 環境意識	<p>アンケート調査からは、地域の清掃や美化、緑化運動などの市民の取組は進んでおり、小中学生にも浸透していることが伺える。</p> <p>事業者アンケートでは、環境学習等を実施していない割合は 62.5%となっている。</p>
市民会議で出された 環境課題	第2回加東市環境市民会議意見集約表のとおり



環境課題	
------	--



協働分野における市民・事業者が目指す 加東市のすがた	
-------------------------------	--

(参考) 協働の推進分野に関するSDGsのゴールとターゲット	  
	<p>教育を通して持続可能な開発に必要な知識・技能を得られるようにする。(4.7)</p> <p>あらゆるレベルにおいて、対応的、包摂的、参加型及び代表的な意思決定を確保する。(16.7)</p>

※文中の( )内の数値は、SDGsにおける目標・ターゲット番号

(参考) 兵庫県の主要施策 (第5次兵庫県環境基本計画)	
いのちのつながりを実感する	学校等における環境学習・教育の推進
ふるさとへの愛着を育む	地域における環境学習・教育の推進
環境にやさしいライフスタイルを実践・確立	
環境保全・地域づくりに向けた取組への積極的な参加	
行政、事業者、県民の連携によるネットワークの形成	
各主体における環境学習・教育、研究、人材育成、情報提供、政策提言等の実施	
地域の特性を生かした環境学習・教育の実施、実践の場の提供	
都市と農村の地域間連携・自然交流等のコーディネート・担い手づくり	
環境負荷の小さい製品やサービスに関する研究開発等への積極的な投資(ESG 投資の実施)	
企業の自主的な取組の推進、環境影響・環境負荷に関する情報の県民への適切な公開	
CSR 活動を通じた環境保全活動の実施	